

# 特別支援学級 生活単元学習指導案

令和 年 月 日( ) 校時

( ) 学級 (知的障害児学級)

( ) 年男子 ( ) 名 ( ) 年男子 ( ) 名

( ) 年男子 ( ) 名 計 ( ) 名

指導者 ( ) 場所 ( ) 学級

1 単元名 「秋まつりに参加しよう」

2 本 時 ( 3 / 9 )

(1) 本時の目標

紙粘土を使って、お供え物をつくることができる。

A 児・・・小麦粉粘土を口にしないで、団子をイメージしながら丸めることができる。

B 児, 5 年生, 6 年生・・・自分がお供えしたい物をイメージしながら作るすることができる。

(2) 言語活動の充実の工夫

出来上がった作品 (お供え物) について, 個々に実態に応じて説明する場を設定する。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	形態	指導上の留意点 ※評価
つかむ 見通す	1 前時までの学習を振り返る。 ・学習計画表を見ながら, 学習を振り返る。 2 学習課題をつかむ。 (1)本時のめあてを確かめ, 読む。 かみねんどをつかって, おそなえものをつくり, がんばったことをはっぴょうしよう。	(分) 3 5	一斉  一斉	1 学習計画表を黒板に掲示する。 ※ これまでの学習の流れを確認することができる。 2 実態に応じて, めあてを細分化する。 ※ 元気よく, めあてを読むことができる。
調べ 深める	3 紙粘土の使い方の説明を聞く。 4 紙粘土を使って, お供え物を作る。 A 児の活動内容 「お団子をイメージして紙粘土を丸める活動をする。」 4 年生 B 児, 5 年生, 6 年生の活動内容 「自分がお供えしたい物を作る活動をする。」 5 出来上がった作品 (お供え物) について, 個々の実態に応じて説明する。 6 本時のまとめをする。 がんばったことをみとめあう。	3 20 9	一斉 個人 個人	3 紙粘土の使い方を実物投影機 (視聴覚機器) で説明する。 ※紙粘土の使い方を理解することができる。 4 個々の児童ができると予想される活動の絵やイラストを準備し, 児童が迷った場合に見せる。 ・ A 児は, 物を口にしようとする傾向があるので, 留意する。(万が一に備えて, A 児には, 小麦粉粘土を用いる。) ※ 楽しく活動することができる。(観察) 5 実物投影機を用いて, 出来上がった作品を大型テレビに投影する。 ※ 工夫した点や頑張った点を発表することができる。(発表) 6 一人一人の児童の活動に対して, 賞賛を行う。
振り返る	7 先生の話聞く。 8 次時の活動の話聞く。	3 2	一斉	7 先生の話静かに聞くことができる。 8 学習計画表を元に, 次時の活動の説明を行う。 ※ 次時の学習内容を理解することができる。

(4) 評価

紙粘土を使って, お供え物を作り, がんばったことを発表できたか。